
仮面ライダークロッカー～始まりの物語～

sinne-キヨノリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダークロッカーリー始まりの物語

【Zコード】

Z0459Z

【作者名】

sinne・キヨノリ

【あらすじ】

この世界は、平和な筈だった。ある日突然、不思議な者達がその平和な筈だった世界を脅かす。其処に現れたのは、クロッカスと時計を模した仮面ライダークロッカーリー。^{*}これは仮面ライダーを基にした全オリジナル小説です。苦手な方はすぐに逃げたほうが良いです。

1話「出合い、始まり、青年の変身」（前書き）

ララ「前書きとあとがきだけで登場します！鈴海ララで～す」

ルル「同じく鈴海ルル」

ララ「じゃ、今回のは完全オリジナルだよ！」

ルル「他のsinne執筆小説に特別ゲストとして出ていくりじこ」

「話「出会い、始まり、青年の変身」

「は〜」

青年が居た。

青年の名前は下樹雪人。
しもきゆきと

F・Tという花屋で働く青年だ。

彼が溜息をついてる理由は、今月の食費諸々についてだった。

「何で、こんな風になるんだ〜。。。俺って、結構金遣い荒かつたつけな〜」

自分の所持金を見てもう一度溜息をつく雪人。

「バイト。。。増やそつかな。。。」

仕事をすでに結構している雪人にとっては、もう自分の為に使う時間は少なくなつて来ている。

それでも自分の生活費だけは稼がなければいけない。

「あ、雪人くん！」

「あ、薔薇さん」

彼女は薔薇花苗。
つぼみかなえ F・Tの若き店長である。

「だから、雪人君。花苗って呼んでつて言つたでしょ。で、どうしたの?こんな所で呆然として」

「いや～。生活費が厳しくなって・・・」

「また！？雪人君は、金遣いが荒いのよ。もう。はー

「え？」

花苗は雪人に手を差し出した。

「今日ぐらいは私が奢つてあげる。結構お世話をになつてゐしね

「・・・ありがとな～！～薔さん～！」

「だから花苗つて呼んで！」

「はいはい」

* *

「はあ・・・はあ・・・」

少年が走っていた。

「見つけた。こっちに来い！」

「誰だ・・・」

「覚えてないのか。なら、力づくで捕まえるしかないか

「はあ・・・はあ・・・」

少年は、追つてくる者に追いつかれないよう、全力で走る。

* * * * *

「あ～、良かつたあ、もう、本当に今月ピンチだつたんだよ。ありがとな、薔さん」

「だから、花苗って呼んでつて言つてるでしょ。じゃあね。雪人君」

そう言って、花苗は帰つて行つた。

「ふう。良かつた良かつた。
ん?」

雪人はあるモノを見つけた。

「君は…・・・」

それは、少年だった。

「どうしたんだ？ 君は

「ほへは、クキル。お兄ちゃんは？」

「俺は下樹雪人。で、どうして此処でこんな事してるんだ?」

雪人はクキルと名乗った少年に尋ねる。

「ぼくは、何でだろう？ 何だか、追われてるみたいなんだ。ねえ、雪人お兄ちゃん。ぼくを連れてってくれる？」

自分がよく分かつてないように言つクキルに対し、雪人は

「分かつた。でも、俺に着いてきてもあまり養えないと？」

「どうでもいい。ただ、あいつらから守つてくれれば良いから」

「分かつた。じゃ、付いて来な」

「うん」

雪人はクキルを連れて家に帰る。

「これが、クロツカーの資格者……」

クキルは、雪人に気付かれない様に呟いた。

その近くでは、不思議な少女と少年が居た。

「ねえ、アレク。あれが、クキルなの？」

「そちらしいわ……。コトト。もう少し、彼を偵察してみるわ。
それと、あの雪人という青年についても」

「分かつた」

* * * * *

「ねえ~、雪人お兄ちゃん」

「何だ？あと、俺の事は雪人って呼んでくれ、何だか変な感じがするつて言うか、悲しくなるんだ」

「…………うん、分かった。雪人。ねえ、此処が、雪人の家？」

「ああ、クキル」

「何？」

雪人はクキルに訊く。

「本当に俺でよかつたのか？」

「うん。雪人じやないと駄目だから」

クキルは、雪人に妙な執着を持っている。
それは出会ったときから既に分かる。

その時

「ううつ！」

「どうした、クキル」

「何だか・・・西の方向から、悪寒がする。何か、怪物が暴れいるみたいだ！」

「怪物・・・」

いきなり苦しみだしたクキルに、雪人は疑問に思う。

「雪人・・・付いてきて!」

「え?あ、ああ?」

クキルは突然雪人の手を握ったかと思うと、雪人の手を引いて走つて行つた。

* * * * * * * * * * * *

「ふふふ・・・。丁度良かつたわね」

「モノの破壊衝動を吸い取り、何かを怪物にする。これは、ブレイクモンスターとでも言つておく?アレク

「そうね」

先程の少年と少女が石の怪物を引き連れている。

「あら、そちらから来ててくれたようね」

其処には、クキルと雪人が居た。

「クキル、一体何なんだ」

「雪人。これを使って!」

クキルが雪人に渡したのは時計。クロツカスの紋様が彫られている。

「それは!」

少女・・・アレクが驚いたように言つ。

「これは、何だ？」

「クロックベルト。これでクロッカーに変身して！」

「・・・」

「お願ひ！」

必死で言つクロキルに雪人は心を打たれ、受け取つていた。

「分かつた。必死に言つ願い事は、叶えてやらなきやな。じゃ、行くぞ」

雪人は、クロックベルトの鎖を腰に巻きつける。
そして、時計部分を開けて言つた。

「変身」

其処には、クロックカスと時計を模した者に変身していた。

「仮面ライダークロックカー。か」

アレクは、そう言い放つた。

「成る程、なら、行かせて貰う!」

続く

1話「出合い、始まり、青年の変身」（後書き）

てわけで、またはじめてしまった・・・。
何だか次々とはじめてしまう・・・。
もうそろそろ何か終わらせなきや？（全部大して進んでない）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0459z/>

仮面ライダークロッカー～始まりの物語～

2011年12月1日20時46分発行